

今帰仁城跡

世界遺産

聞え今帰仁

百曲がり 積み上げて

珈琲羅寄せ御ぐすく げらへ

鳴響む今帰仁

「おもろ」にうたわれた「みやきせん」

「名高い今帰仁城は、曲折した城壁を積み上げて、

玉のような石が寄せられ、

城ぐすくが築城された。名高い今帰仁城よ。」

*琉球の古謡集「おもろ」より

ご案内

- 時間** 今帰仁城跡・今帰仁村歴史文化センター
(※両施設統一チケットです)
- 通常期間(1~4, 9~12月) 午前8時~午後6時
 - 夏期延長期間(5月~8月) 午前8時~午後7時
- 年中無休** ※但し、予告無く館内燻蒸、施設管理等によって一部施設を閉館する場合があります。
- 駐車場** 無料(約320台収容)
- 交通**
- 那覇空港から約110km(車で2時間45分)
 - 本部循環線
 - やんばる急行バス(那覇空港・那覇市内まで乗り換えなしの急行バス)
- ※今帰仁村字今泊今帰仁城跡入口バス停 下車徒歩15分

観覧料

| 区分 | 個人 | 団体(10人以上) |
|-------|------|-----------|
| 大人 | 400円 | 320円 |
| 小中高生 | 300円 | 240円 |
| 小学生未満 | 無料 | 無料 |

◆観覧料は今帰仁城跡と歴史文化センターの共通券となります。歴史文化センターのみ利用の場合は150円となります。

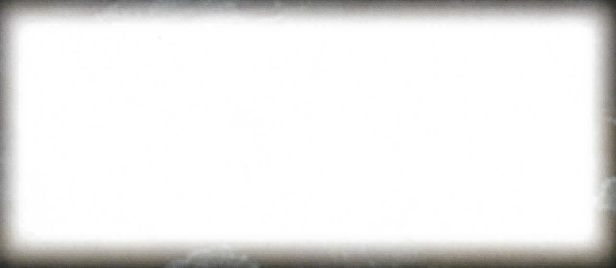
お問い合わせ

今帰仁城跡管理事務所(今帰仁村グスク交流センター内)
 〒905-0428 沖縄県国頭郡今帰仁村字今泊5101番地
 TEL・FAX:0980-56-4400

今帰仁村教育委員会(文化財係)
 TEL:0980-56-3201

今帰仁村歴史文化センター
 〒905-0428 沖縄県国頭郡今帰仁村字今泊5110番地
 TEL:0980-56-5767 FAX:0980-56-2789
 ホームページ URL <http://rekibun.jp/>


マップコード
 カーナビへセット! **553 081 557**



今帰仁城跡の見学利用について

- 見学中の事故等については、一切の責任を負いかねます。城内への車輛の乗り入れは禁止しております。
- 駐車場の利用について
 当駐車場ご利用の際の盗難・事故・事件などへのトラブルにつきましては一切の責任を負いかねます。

な き じ ん
沖縄県今帰仁村教育委員会

WORLD HERITAGE 
 Gusuku Sites and Related
 Properties of the Kingdom of the Ryukyus
 Nakijin Gusuku

世界遺産 今帰仁城跡



①外郭
高さは2m前後と比較的低い石垣が延長数百m蛇行して続いています。発掘調査で屋敷跡が確認されました。



②平部門
本門で、現在見る門は昭和37年の琉球政府時代に修復されました。琉球国由来記に「北山王者、本門、平部門ヲ守護ス」として登場します。



③大隈
戦時に備え馬を養い、兵馬を訓練した場所として伝えられています。最も高い石垣が築かれた堅牢な城郭です。



④カーザフ
カーは川や湧泉を、ザフは迫で谷間を意味します。谷間は自然の石が露出して独特の景観をつくっています。



⑤旧道
平部門から入って右手、曲がりくねった大きな岩盤の谷間を利用し、防衛機能上から幅は狭く急なぼり道となっています。



⑥大庭
大庭を取り囲むように正殿(主郭)、北殿、南殿の建物が配置されていたと考えられ、行事等に利用された重要な広場です。



⑦御内原(写真城内上の御獄)
今帰仁城跡に仕えた女官の生活の場所と伝えられ、城内でも神聖な場所です。北側から海を一望することができます。



⑧主郭(俗称本丸)
発掘調査によって築城から廃城までの時期変遷を確認することができました。城内で最も中心的な建物があった場所です。



⑨志慶真門郭
ここには城主に仕えた身近な人々が住んだと考えられます。発掘調査によって4つの建物があったことが分かっています。



⑩クバの御嶽
今帰仁城跡の西にある古生代~中生代の石灰岩からなる丘陵。琉球の時代から続く聖地で、地元ではウガミと呼ばれる神域です。



⑪ミーミングスク
ミーミングスクは高さ約1.5mの石積みが方形に積まれています。今帰仁城の出城ではなかったかと考えられています。



⑫今帰仁ムラ跡
今帰仁城跡の周辺にはいくつかの集落跡がありました。今帰仁ムラ跡では発掘調査が行われ多数の柱穴や土坑、中国産の陶磁器などが発見されています。



今帰仁城跡のカンヒザクラ
今帰仁城跡は桜の名所として知られ、毎年1月~2月には桜祭りが行われています。桜は昭和40年代に今治区民によって植樹されました。

共通チケットでご入場できます

今帰仁村歴史文化センター

今帰仁城跡をはじめ今帰仁村の歴史と文化を紹介しています。今帰仁城跡から出土した陶磁器などの資料も展示しています。

3F 第1展示室 今帰仁の歴史

今帰仁城跡から発掘された陶磁器をはじめ、今帰仁按司に関わる墓やノロ制度について紹介しています。

2F 第2展示室 今帰仁のムラ・シマ

ムラ・シマ(村落)の集落の形態は碁盤状や分散型などがあり、そこには御嶽や神アサギや拝所、馬場や湧泉などがあります。

2F 第3展示室 今帰仁の生活と文化

戦前・戦後の記念写真、戦後すぐの豊年祭の衣装、晴れの日の装い、様々な道具などからムラ・シマの生活が分かります。

1F 第4展示室 今帰仁の遺跡

これまでに今帰仁村内で発掘された遺跡を紹介します。今帰仁城跡が築城される以前より村内には多くの遺跡があります。

国宝金装宝剣拵(千代金丸)



金装宝剣拵と刀身は千代金丸と呼ばれています。今帰仁村歴史文化センターの展示は国宝金装宝剣(那覇市歴史博物館蔵)の複製です。1416年に中山の連合軍に攻め滅ぼされたとき、北山王攀安知は崇めたててきたテンチアアマチヅ(上の御嶽のイベ)の神が守護してくれなかったとして切りつけた刀(太刀:たち)が千代金丸です。自害しようとしたが切れず、志慶真川に投げ捨てます。後に下流域で伊平屋島の人に拾われ王府に献上されたと伝えられています。

「なきじん」をもっと知りたいあなたに
『今帰仁城跡ガイドブック』・『なきじん研究』vol.1~vol.19ほか今帰仁村教育委員会・今帰仁村歴史文化センターが刊行している出版物には、今帰仁のより詳しい情報が掲載されています。なきじん散策のお供に是非。

今帰仁ガスクを学ぶ会・案内ガイド

お客様の希望に合わせて案内時間を設定いたします。お気軽にご相談ください。

- 受付時間: 9時~16時 ●年中無休
- TEL・FAX: 0980(56)4406



至名護
今帰仁

至本部
美ら海水族館

国道 505 号

**1 今帰仁村
グスク交流センター**

グスク交流センター内にある券売所で先ずチケットをご購入下さい。また、同センター内休憩所では世界遺産や今帰仁城跡の解説を映像でご紹介しています。



2 今帰仁城跡屋外模型

今帰仁城跡の地形模型を屋外にて展示しています。今帰仁城跡の縄張り、城の周辺に点在する遺跡の様子を確認することができます。



**3 世界遺産・国指定史跡
今帰仁城跡**

今帰仁城跡を実際にご覧下さい。見どころは、高く積まれた石垣や眺望の良い景観です。ボランティアガイドの案内もあります。お気軽にご利用下さい。



**4 今帰仁村
歴史文化センター**

今帰仁城跡をはじめ今帰仁村の歴史と文化を紹介しています。今帰仁城跡から出土した陶磁器などの資料も展示しています。



三大勢力が争ったグスク時代

14世紀の中国の史書に琉球国山北王「帕尼芝」「珉」「攀安知」の三王が登場します。この頃の沖縄本島は北部地域を北山、中部地域を中山、南部地域を南山がそれぞれ支配した「三山鼎立の時代」でした。北山王は今帰仁城を拠点に沖縄島の北部を中心に支配下とし、中国と貿易をしていました。しかし1416年(1422年説もある)に中山の尚巴志によって滅ぼされ、北山としての歴史の幕を閉じることになります。



歴史年表

| | | | | | | |
|-----|-----|----|----|----|----|----|
| 日本 | 8世紀 | 縄文 | 弥生 | 古墳 | 飛鳥 | 奈良 |
| 沖縄 | 旧石器 | 縄文 | 弥生 | 古墳 | 飛鳥 | 奈良 |
| 今帰仁 | 旧石器 | 縄文 | 弥生 | 古墳 | 飛鳥 | 奈良 |

北山から 監守時代へ

北山の敗北後、中山は北部地域の管理のために監守を今帰仁グスクに設置し、1422年以後、監守の居城としてグスクを利用します。しかし1609年に薩摩軍による琉球侵攻にあい、城は炎上したとされています。監守が住まなくなって以後は拝所とし精神的拠り所として広く県内から参拝者が訪れています。



| | | | | | |
|-------|-------|----------|----------|---------|-----------|
| 13世紀 | 15世紀 | 17世紀 | 19世紀 | 20世紀 | 21世紀 |
| 平安 | 鎌倉 | 室町 | 戦国 | 安土桃山 | 江戸 |
| 三山 | 第一尚氏 | 第二尚氏(前期) | 第二尚氏(後期) | 沖繩県時代 | 大正 |
| グスク時代 | グスク時代 | グスク時代 | グスク時代 | グスク時代 | 昭和 |
| 北山王時代 | 第一尚氏 | 第二尚氏(前期) | 第二尚氏(後期) | 今帰仁間切時代 | 今帰仁村政(前期) |
| グスク時代 | 第一尚氏 | 第二尚氏(前期) | 第二尚氏(後期) | 今帰仁間切時代 | 今帰仁村政(後期) |